

アレルギー物質を含む食品の表示について

令和4年6月
消費者庁食品表示企画課

アレルギー物質を含む食品に関する 表示制度及びその経緯

平成13年3月

アレルギー物質を含む食品の表示制度を創設

○食品衛生法に基づく厚生労働省令を改正

(平成13年3月15日公布、同年4月1日施行(14年3月31日まで経過措置))

・特定原材料(義務) 5品目(乳、卵、小麦、そば、落花生)

○特定原材料に準ずるもの(推奨) 19品目を通知で規定

平成16年12月

特定原材料に準ずるものに「バナナ」を追加 《義務5品目・推奨20品目》

平成20年6月

特定原材料に準ずるものであった「えび」、「かに」を義務表示である特定原材料に移行 《義務7品目・推奨18品目》

平成25年9月

特定原材料に準ずるものに「カシューナッツ」、「ゴマ」を追加 《義務7品目・推奨20品目》

平成27年4月

食品表示法施行

令和元年9月

特定原材料に準ずるものに「アーモンド」を追加 《義務7品目・推奨21品目》

「食物アレルギー」とは

食物を摂取した際、身体が食物(に含まれるタンパク質)を異物として認識し、自分の身体を防御するために過敏な反応を起こすことがある。これを食物アレルギーと呼んでいる。

○ 特定のアレルギー体質をもつ消費者の健康危害の発生を防止する観点から、過去の健康危害等の程度、頻度を考慮し、加工食品等へ**特定原材料**を含む旨の表示を規定。

【主な食物アレルギーの症状】

軽い症状: かゆみ、じんましん、唇や臉の腫れ、嘔吐、喘鳴
重篤な症状: 意識障害、血圧低下などのアナフィラキシーショック

特定原材料等

特定原材料等の名称		理由	表示の義務
特定原材料	えび、かに、小麦、そば、卵、乳、落花生（ピーナッツ）	特に発症数、重篤度から勘案して表示する必要性の高いもの	表示義務
特定原材料に準ずるもの	アーモンド、あわび、いか、いくら、オレンジ、カシューナッツ、キウイフルーツ、牛肉、くるみ、ごま、さけ、さば、大豆、鶏肉、バナナ、豚肉、まつたけ、もも、やまいも、りんご、ゼラチン	症例数や重篤な症状を呈する者の数が継続して相当数みられるが、特定原材料に比べると少ないもの	表示を推奨

表示例

（アレルゲンの表示は、原則、個別表示。例外として、一括表示も可。）

【個別に表示する場合】

原材料名: じゃがいも(国産)、にんじん、ハム(卵・豚肉を含む)、マヨネーズ(卵・大豆を含む)、たんぱく加水分解物(牛肉・さけ・さば・ゼラチンを含む)／調味料(アミノ酸等)

【一括して表示する場合】

原材料名: じゃがいも(国産)、にんじん、ハム、マヨネーズ、たんぱく加水分解物／調味料(アミノ酸等)、(一部に卵・豚肉・大豆・牛肉・さけ・さば・ゼラチンを含む)

「即時型食物アレルギーによる健康被害の全国実態調査」の概要

調査方法

- 従来の全国調査(これまでおおむね3年ごとに実施)の協力医師、調査対象、調査方法全てを踏襲し、継続性を重視
- 協力医師はアレルギーを専門とする医師(日本アレルギー学会指導医及び専門医、並びに日本小児アレルギー学会会員)の中で調査の趣旨に賛同を得られた者(1,089名)
- 調査対象は“食物を摂取後60分以内に何らかの反応を認め、医療機関を受診した患者”とし、食物経口負荷試験や経口免疫療法(OIT)により症状が誘発された症例は調査対象としていない。
※調査項目:氏名(イニシャル)、性別、年齢、原因抗原の摂取食物種(自由記載)、原因抗原、臨床症状(皮膚、呼吸器、粘膜、消化器、全身から選択方式と自由記載方式の併用)等
- 調査期間は令和2年1月から12月で、3か月毎にはがきを郵送する方法で行い、はがきでの報告又は要望に応じてメールでも報告を受けた。

調査対象

第1回(R2.01-03月)1,727例	}	合計6,677例
第2回(R2.04-06月)1,886例		
第3回(R2.07-09月)1,736例		
第4回(R2.10-12月)1,328例		

※なお、報告のあった症例のうち、原因物質が特定されていない414例、原因物質が食物以外のもの83例(アニサキス70例、ダニ13例)、年齢性別や治療・転帰、初発/誤食が不明な症例やOIT時の症例100例を除外し、6,080例を解析対象とした。

年齢
分布

0歳が1,876例(30.9%)で最も多く、1・2歳群が1,364例、3-6歳群が1,525例、7-17歳群が906例、18歳以上群338例であった。
 なお、全体の男女比は、男性3,507例／女性2,573例で男性が多い傾向であった。

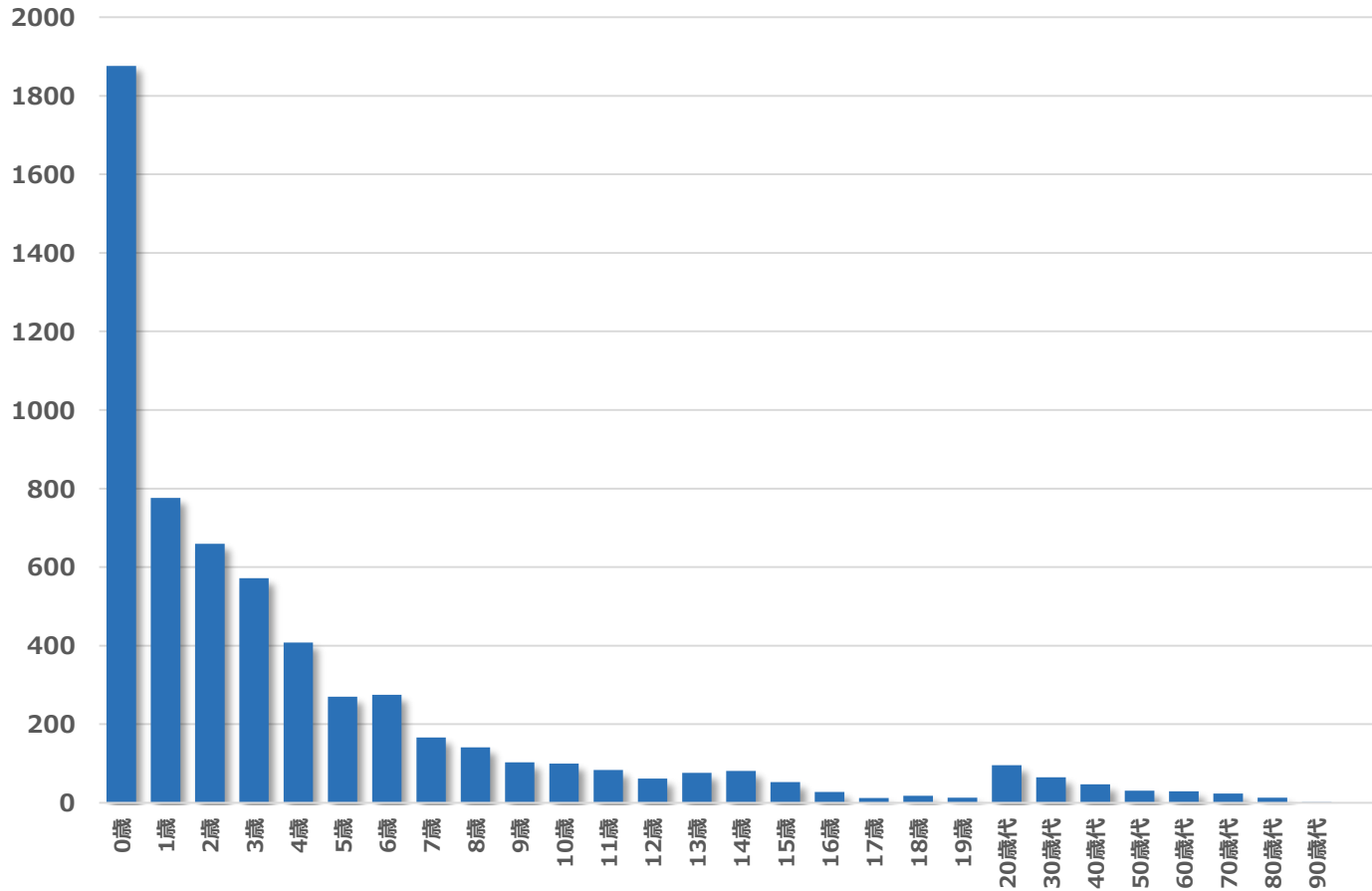


図1：年齢分布

※20歳以上は10代区切りで集計した結果である。

原因
食物

鶏卵2,028例(33.4%)、乳1,131例(18.6%)、木の実類819例(13.5%)であった。前回の調査まで原因食物の上位3品目は鶏卵・牛乳・小麦であったが、今回の調査では木の実類の割合が増加し、第3位となった(前回8.2%、第4位)。木の実類の内訳は、くるみが463例で最も多く、以下、カシューナッツが174例、マカダミアナッツが45例であった。

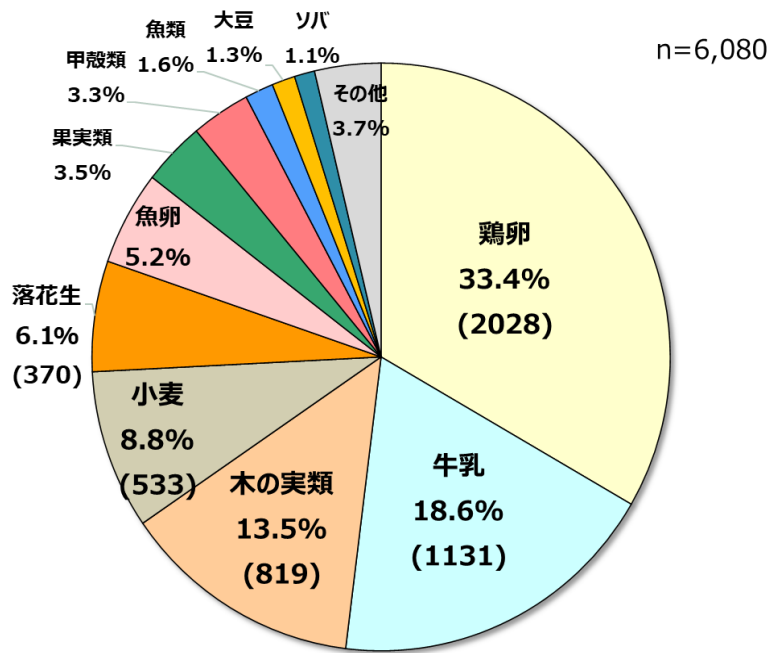


図2:原因食物の割合

種類	n	全体に対する%
くるみ	463	7.6%
カシューナッツ	174	2.9%
マカダミアナッツ	45	0.7%
アーモンド	34	0.6%
ピスタチオ	22	0.4%
ペカンナッツ	19	0.3%
ヘーゼルナッツ	17	0.3%
ココナッツ	8	0.1%
カカオ	1	0.0%
クリ	1	0.0%
松の実	1	0.0%
ミックス・分類不明	34	0.6%
合計	819	

表1:木の実類の内訳

妥当
性の
検証

即時型症例6,080例において、特定原材料7品目は71.3%(4,332例)を占め、特定原材料等21品目を含めると93.4%(5,676例)を占めた。

初発

初発例の原因食物は、0歳群こそ鶏卵、牛乳、小麦の順であったが、加齢とともに大きく変化し、1・2歳群では鶏卵、木の実類、魚卵、3-6歳群は木の実類、魚卵、落花生、7-17歳群は甲殻類、木の実類、果実類、18歳以上群は小麦、甲殻類、果実類の順であった。木の実類は1・2歳群で2位(24.3%)、3-6歳群で1位(41.7%)、7-17歳群で2位(19.7%)といずれも上位2品目に入っていた。

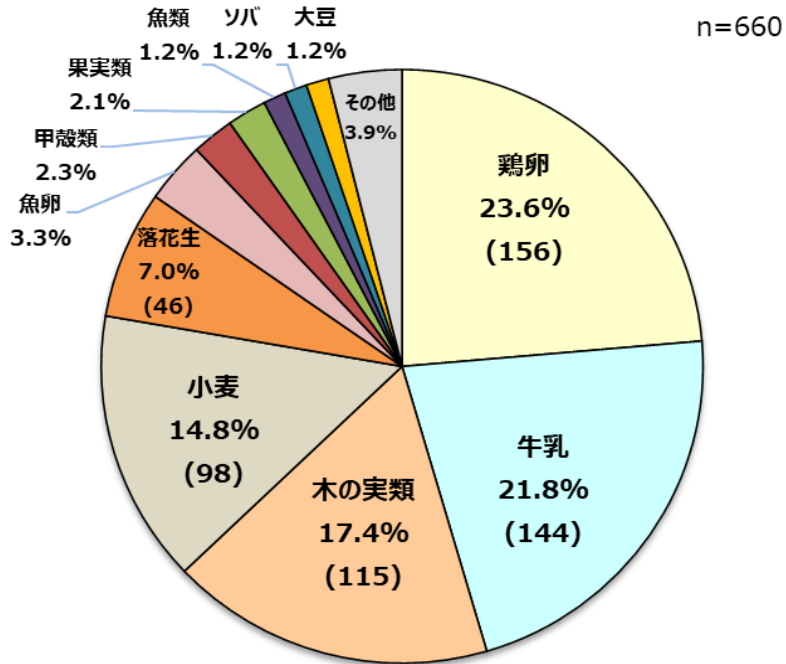
	0歳(1,736)	1-2歳(848)	3-6歳(782)	7-17歳(356)	≥18歳(183)
1	鶏卵 61.1%	鶏卵 31.7%	木の実類 41.7%	甲殻類 20.2%	小麦 19.7%
2	牛乳 24.0%	木の実類 24.3%	魚卵 19.1%	木の実類 19.7%	甲殻類 15.8%
3	小麦 11.1%	魚卵 13.0%	落花生 12.5%	果実類 16.0%	果実類 12.6%
4		落花生 9.3%		魚卵 7.3%	魚類 9.8%
5		牛乳 5.9%		小麦 5.3%	大豆 6.6%
6					木の実類 5.5%
小計	96.1%	84.2%	73.3%	68.5%	69.9%

注釈：各年齢群で5%以上の頻度の原因食物を示した。また、小計は各年齢群で表記されている原因食物の頻度の集計である。原因食物の頻度(%)は小数第2位を四捨五入したものであるため、その和は小計と差異を生じる。

表2：年齢別原因食物(初発集計)

ショック症状

ショック症状を引き起こした原因食物の上位3品目は、これまで鶏卵・牛乳・小麦であったが、木の実類の割合が増加し、第3位となった(前回12.8%、第4位)。木の実類の内訳としては、くるみが58例で最も多く、単独では落花生46例より上位であった。次いで、カシューナッツが30例であった。



種類	n	全体に対する%
くるみ	58	8.8%
カシューナッツ	30	4.5%
アーモンド	7	1.1%
ピスタチオ	6	0.9%
マカダミアナッツ	5	0.8%
ペカンナッツ	3	0.5%
ミックス・分類不明	6	0.9%
合計	115	

図3：ショック症状を呈した原因食物の割合

表3：ショック症状を呈した木の実類の内訳

妥当性の検証

ショック症例660例において、特定原材料7品目は70.8%(467例)、特定原材料等21品目を含めて92.9%(613例)を占めた。

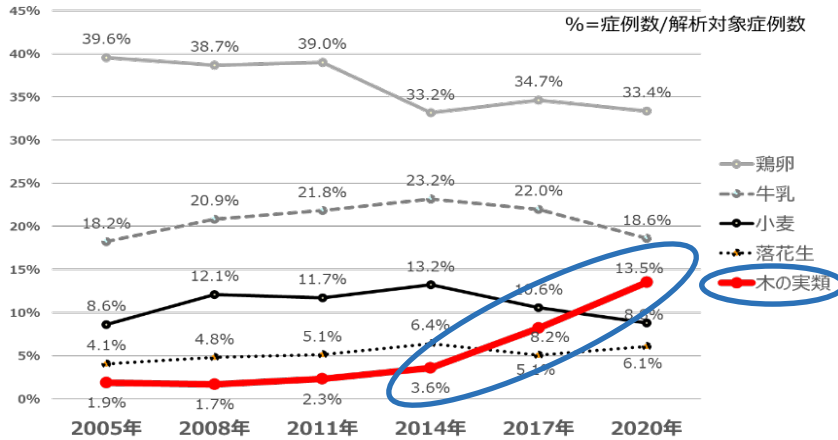


図4：上位品目の症例数比率の推移

- 木の実類の増加傾向について2005年以降の傾向をみると、上位品目の鶏卵・牛乳・小麦がほぼ横ばいであるのに対して2014年以降、木の実類は増加している。

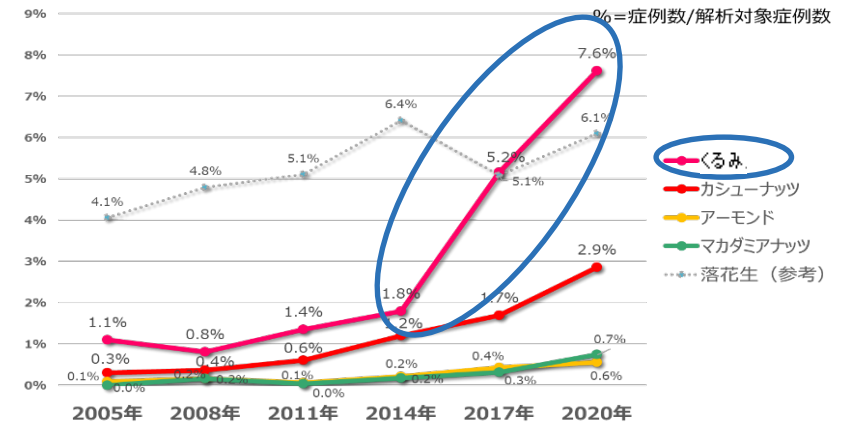


図5：木の実類の症例数比率の推移

2020年調査で0.5%以上の木の実類のみ抜粋

- 木の実類の内訳をみると、クルミの増加が著しい。

- 今回の調査件数は6,080例であり、前回(4,851例)に引き続き増加傾向であった。
- 前回調査(2017年)まで原因食物の上位3品目は鶏卵・牛乳・小麦であったが、今回の調査では木の実類の割合が増加し、小麦を抜いて主要3大原因食物の一つとなった。
- 木の実類の中でもくるみの増加が著しく、次いでカシューナッツが増加している。
- 初発例の原因食物では、0歳群は鶏卵、牛乳、小麦の順であったが、幼児期、学童期では上位3位以内に木の実類が入っていた。
- 即時型食物アレルギーの原因食物としての木の実類の増加は一時的な現象ではない。

(参考) 食物アレルギーによる即時型症例・ショック症例数の推移

※消費者庁において、過去の全国実態調査より作成

○即時型症例数の推移

年度	上段:原因食物(症例数の順位)、下段:件数																			
	平成24年度	鶏卵	牛乳	小麦	落花生	イクラ	エビ	ソバ	キウイ	くるみ	大豆	バナナ	ヤマモ	カニ	カシューナッツ	モモ	ゴマ	サバ	サケ	イカ
(1)		(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(11)	(13)	(14)	(14)	(16)	(17)	(18)	(18)	(20)
	1153	645	347	151	104	80	65	41	40	28	24	24	19	18	13	12	11	10	10	7
平成27年度	鶏卵	牛乳	小麦	落花生	イクラ	エビ	キウイ	くるみ	ソバ	大豆	カシューナッツ	バナナ	カニ	ヤマモ	モモ	リンゴ	サバ	ゴマ	サケ	アーモンド
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(17)	(19)	(20)
	1626	1034	581	260	180	134	95	74	71	55	50	37	35	33	27	25	19	19	15	14
平成30年度	鶏卵	牛乳	小麦	くるみ	落花生	イクラ	エビ	ソバ	カシューナッツ	大豆	キウイフルーツ	バナナ	ゴマ	モモ	ヤマモ	アーモンド	カニ	マカダミアナッツ	サケ	イカ
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)
	1681	1067	512	251	247	184	121	85	82	80	77	38	28	24	22	21	20	15	14	13
令和3年度	鶏卵	牛乳	小麦	くるみ	落花生	イクラ	カシューナッツ	エビ	キウイフルーツ	大豆	ソバ	ヤマモ/ナガイモ	マカダミアナッツ	カニ	アーモンド	木の実類※	ゴマ	バナナ	魚類	ピスタチオ
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)
	2028	1131	533	463	370	300	174	152	87	79	69	48	45	42	34	34	33	29	28	22

○ショック症例数の推移

※木の実類の分類は不明

年度	上段:原因食物(症例数の順位)、下段:件数																			
	平成24年度	鶏卵	牛乳	小麦	落花生	エビ	イクラ	ソバ	バナナ	カシューナッツ	くるみ	カニ	大豆	キウイ	リンゴ	コメ	サバ	イカ	15品目	
(1)		(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(8)	(10)	(11)	(11)	(11)	(11)	(11)	(11)	(11)	(11)	(18)	
	77	66	64	20	14	12	11	5	5	4	2	2	2	2	2	2	2	1		
平成27年度	鶏卵	牛乳	小麦	落花生	エビ	カシューナッツ	イクラ	キウイ	くるみ	ソバ	カニ	大豆	アーモンド	サバ	バナナ	モモ	ヤマモ	豚肉	27品目	
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(8)	(10)	(11)	(12)	(12)	(14)	(14)	(14)	(14)	(18)	(19)	
	136	124	94	27	15	10	9	7	7	6	5	4	4	3	3	3	3	1		
平成30年度	鶏卵	牛乳	小麦	くるみ	落花生	エビ	カシューナッツ	そば	イクラ	キウイフルーツ	大豆	カカオ	バナナ	オオムギ	ココナッツ	ブリ	マカダミアナッツ	マグロ	アーモンドを含む27品目	
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(13)	(13)	(13)	(13)	(13)	(19)	
	125	118	87	42	38	18	15	14	12	8	5	3	2	2	2	2	2	1		
令和3年度	鶏卵	牛乳	小麦	くるみ	落花生	カシューナッツ	イクラ	エビ	ソバ	大豆	キウイフルーツ	アーモンド	ピスタチオ	木の実類※	マカダミアナッツ	ヤマモ/ナガイモ	ゴマ	ペカンナッツ	ホタテ	
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(9)	(11)	(11)	(13)	(13)	(15)	(16)	(16)	(18)	(18)	
	156	144	98	58	46	30	20	13	8	8	7	7	6	6	5	4	4	3		